



# 構成コンプライアンス、リリース 12.2.1

# 目次

新規情報および変更情報 .....	1
コンフィグ コンプライアンス チェック.....	2
例 1: スイッチの自由形式ポリシーの構成コンプライアンス .....	6
例 2 : オーバーレイ構成での先頭スペース エラーの解決 .....	6
外部ファブリックでのコンプライアンスの構成 .....	7
構成コンプライアンスで無視される特別な構成 CLI.....	9
大文字と小文字を区別しないコマンドの差分の解決.....	10
スイッチ インポート後の構成コンプライアンスの解決.....	12
厳格な構成コンプライアンス.....	13
例 : 厳密な構成コンプライアンス .....	13
著作権.....	14

# 新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

リリースバージョン	特長	説明
以前のリリースからの大きな変更はありません。		

# コンフィグ コンプライアンス チェック

特定のスイッチに定義されたインテント全体または予想される構成は、NDFC に保存されます。この構成を 1 つ以上のスイッチにプッシュする場合、構成コンプライアンス (CC) モジュールがトリガーされます。CC は、現在のインテント、現在の実行構成を取得し、現在の実行構成から現在期待されている構成に移行するために必要な一連の構成を算出し、すべてが同期するようにします。

スイッチでソフトウェアまたはファームウェアのアップグレードを実行しても、スイッチの現在の実行構成は変更されません。アップグレード後、現在の実行構成が現在期待されている構成またはインテントを持っていないことを検出した場合、CC は非同期ステータスを報告します。構成の自動展開は行われません。展開される差分をプレビューしてから、1 つ以上のデバイスを同期状態に戻すことができます。

CC では、同期は常に NDFC からスイッチに対して行われます。逆方向の同期は行われません。そのため、Switch に対し、NDFC で定義されたインテントと競合するアウトオブバンドの変更を行うと、CC はこの差分をキャプチャし、デバイスが同期していないことを示します。保留中の差分は、アウトオブバンドで行われた構成を元に戻し、デバイスを同期状態に戻します。アウトオブバンド変更によるこのような競合がキャプチャされるのは、デフォルトで 60 分ごとに発生する定期的な CC 実行時、またはファブリックごとまたはスイッチごとに RESYNC オプションをクリックしたときであることに注意してください。Cisco NDFC リリース 12.1.1e 以降、定期的な CC は 24 時間ごとに実行されます。この間隔は、30 ~ 3600 分の範囲でカスタマイズできます。この構成は、[サーバ (Server)] > [サーバ設定 (Server Settings)] > [LAN ファブリック (LAN-Fabric)] に移動して行うことができます。CC の REST API を使用して、スイッチ全体のアウトオブバンド変更をキャプチャすることもできます。詳細については、*Cisco NDFC REST API Guide* を参照してください。

展開される構成の使いやすさと読みやすさを向上させるために、NDFC の CC は以下のように拡張されました。

- ・ NDFC でのすべての表示は、読みやすく理解しやすいものにされました。
- ・ 繰り返される構成スニペットは表示されません。
- ・ 保留中の構成には、正確に差分構成だけが表示されます。
- ・ 並列比較による差分表示はより読みやすくなり、統合された検索またはコピー、および差分サマリー機能を備えています。

NDFC インテントが関連付けられていない、スイッチの最上位の構成コマンドでは、CC のコンプライアンス チェックは行われません。ただし、以下のコマンドについては、NDFC インテントがない場合でも、CC はコンプライアンス チェックを実行し、削除を試みます。

- ・ プロファイルの構成
- ・ プロファイルの適用
- ・ interface vlan
- ・ interface loopback
- ・ インターフェイス ポートチャンネル
- ・ サブインターフェイス (interface EthernetX/Y.Z など)
- ・ fex
- ・ vlan <vlan-ids>

**Data Center VXLAN EVPN** および **BGP Fabric** テンプレートが使用される場合にのみ、CC ではこれらのコマンドのコンプライアンス チェックと削除の試行を実行します。 **External\_Fabric** および **Classic LAN** テンプレートでは、

上記に示されているコマンドを含め、関連する NDFC インテントを持たないスイッチの最上位構成コマンドでは、CC によるコンプライアンスのチェックを実行しません。

予期しない動作を避けるために、これらのコマンドをスイッチに展開する場合には、NDFC フリーフォーム構成テンプレートを使用して追加のインテントを作成することをお勧めします。

ここで、スイッチに存在する構成がインテントで定義された構成と関係していないシナリオを考えてみましょう。このような構成の例としては、インテントでキャプチャされていないがスイッチに存在する新しい機能、またはインテントでキャプチャされていない他の構成の特徴があります。構成コンプライアンスは、これらの構成の不一致を差分とは見なしません。このような場合、厳密な構成コンプライアンスは、インテントで定義されているすべての構成行がスイッチに存在する唯一の構成であることを保証します。ただし、厳密な CC チェックは、ブート文字列、rommon 構成、およびその他のデフォルト構成などの構成を無視します。このような場合、内部構成コンプライアンス エンジンは、これらの構成変更が差分として呼び出されないようにします。これらの差分は、**【保留中の構成 (Pending Config)】** ウィンドウにも表示されません。ただし、並列比較差分ユーティリティは、2 つをテキスト ファイルとして差分の比較を行います。diff の計算で使用される内部ロジックは利用しません。その結果、デフォルト構成の差分は、**【並列比較 (Side-by-side Comparison)】** ウィンドウで赤で強調表示されます。

NDFC で、デフォルト構成の違いは **【並列比較 (Side-by-side Comparison)】** ウィンドウで強調表示されません。**【実行中の構成 (Running config)】** ウィンドウで強調表示される自動生成されたデフォルト構成は、**【期待される構成 (Expected config)】** ウィンドウには表示されません。

**【保留中の構成 (Pending Config)】** ウィンドウに表示される構成が **【並列比較 (Side-by-side Comparison)】** ウィンドウでは赤で強調表示される場合があります。これは、その構成が **【実行中の構成 (Running config)】** ウィンドウには表示されるものの、**【期待される構成 (Expected config)】** ウィンドウには表示されない場合です。一方、**【保留中の構成 (Pending Config)】** ウィンドウに表示される構成が **【並列比較 (Side-by-side Comparison)】** ウィンドウでは緑で強調表示される場合もあります。これは、その構成が **【期待される構成 (Expected config)】** ウィンドウには表示されるものの、**【実行中の構成 (Running config)】** ウィンドウには表示されない場合です。**【保留中の構成 (Pending Config)】** ウィンドウに構成が表示されない場合、**【並列比較 (Side-by-side Comparison)】** ウィンドウに赤で構成が表示されることはありません。

すべての自由形式の構成は、スイッチの show running configuration の出力と厳密に一致する必要があり、構成からの逸脱は、**【再計算と展開 (Recalculate & Deploy)】** の際に差分として表示されます。先頭のスペースによるインデントは守る必要があります。

通常、次の方法を使用して NDFC に構成スニペットを入力できます。

- ・ ユーザー定義のプロファイルとテンプレート
- ・ スイッチ、インターフェイス、オーバーレイ、および vPC フリーフォーム設定
- ・ スイッチごとのネットワークおよび VRF フリーフォーム構成
- ・ リーフ、スパイン、または iBGP 構成のファブリック設定



構成形式は、対応するスイッチの **show running configuration** と同じである必要があります。それ以外の場合、

構成に欠落したり、正しくない先頭のスペースにより、予期しない **展開 エラー** や **予期しない保留中の**

**構成**が発生する可能性があります。予期しない差分または展開エラーが表示された場合、ユーザー提供またはカスタムの構成スニペットに間違った値がないか確認してください。

予期しない保留中の構成が原因で NDFC に「非同期」ステータスが表示され、この構成が展開できないか、展開後も変化がない場合は、次の手順を実行して回復します。

1. [保留中の構成 (Pending Config) ] タブ ([構成プレビュー (Pending Config) ] で強調表示されている構成の行を確認します。  
閉じます。
2. [並列比較 (Side-by-side Comparison) ] タブで同じ行を確認します。このタブには、「intent」または「show run」、あるいはその両方の先頭スペースが異なっていて、差分になっていた場合、それが表示されます。先頭のスペースは、[並列比較 (Side-by-side Comparison) ] タブで強調表示されます。
3. 保留中の構成または非同期状態のスイッチが、「インテント」と「実行構成」の先頭のスペースが一致しない、識別可能な構成が原因である場合、インテント側のスペースが正しくないため、編集する必要があることを示しています。
4. カスタム ポリシーまたはユーザー定義ポリシーの不適切なスペースを編集するには、スイッチに移動して対応するポリシーを編集します。
  - a. ポリシーのソースが [アンダーレイ (UNDERLAY) ] の場合、ファブリック設定画面からこれを編集し、更新された構成を保存する必要があります。
  - b. ソースが空白の場合は、そのスイッチの [ポリシーの表示/編集 (View/Edit policies) ] ウィンドウから編集できます。
  - c. ポリシーのソースが [オーバーレイ (OVERLAY) ] であるが、スイッチの自由形式構成から派生している場合。この場合、適切な [オーバーレイ (OVERLAY) ] スイッチ自由形式構成に移動して更新します。
  - d. ポリシーのソースが [オーバーレイ (OVERLAY) ] またはカスタム テンプレートの場合は、次の手順を実行します。
    - i. [設定 (Settings) ] > [サーバ設定 (Server settings) ] を選択し、`template.in_use.check` プロパティを `false` に設定し、[使用中テンプレートのオーバーライド (Template In-Use Override) ] チェックボックスをオフにして [保存 (Save) ] します。これにより、プロファイルまたはテンプレートを編集できるようになります。
    - ii. [管理 (Manage) ] > [テンプレート (Templates) ] > [テンプレート プロパティの編集 (Edit template properties) ] 編集ウィンドウから特定のプロファイルまたはテンプレートを編集し、更新されたプロファイル テンプレートを適切なスペースを設定して保存します。
    - iii. [再計算と展開 (Recalculate & Deploy) ] をクリックして、影響を受けるスイッチの差分を再計算します。
    - iv. 構成が更新されたら、`template.in_use.check` プロパティを `true` に設定し、[使用中テンプレートのオーバーライド (Template In-Use Override) ] チェック ボックスをオンにして [保存 (Save) ] します。これは、特に [再計算と展開 (Recalculate & Deploy) ] 操作で、NDFC システムのパフォーマンスが低下するためです。

NDFC の [構成ステータス (Config Status) ] に「NA」と表示される場合は、次のガイドラインが適用されます。

- ・ スイッチの「モード」が「移行」の場合に予期されます。これは、一部の NDFC ワークフローが原因である可能性があります。関連するワークフローの手順に従って、スイッチ モードを「通常」状態と関連する構成ステータスにします。
- ・ 他のすべてのケースでは、NDFC が正しい「構成ステータス」を計算できなかった一時的な状態を示している可能性があります。次の手順を実行します。
  - 1 つのスイッチに表示される場合は、スイッチレベルのプレビューまたは展開を実行します。
  - 複数のスイッチに表示されている場合は、それらのスイッチを選択してプレビューまたは展開を実行します。

- ファブリックレベルで表示されている場合は、すべてのスイッチを選択し、プレビューまたは展開を実行します。
- 研究開発もファブリックレベルのオプションですが、これは構成の保存操作も行い、大規模なファブリックでは時間がかかる可能性があります。

差分が解決されたことを確認するには、ポリシーを更新した後に [再計算と展開 (Recalculate & Deploy) ] をクリックして変更を検証します。



NDFC は、コマンドの階層を意味するものであるため、先頭のスペースのみをチェックします。特にマルチコマンド シーケンスの場合、NDFC は、コマンド シーケンスの末尾のスペースをチェックしません。

## 例 1: スイッチの自由形式ポリシーの構成コンプライアンス

スイッチの [自由形式構成 (Freeform Configuration) ] フィールドのスペースが正しくない例を考えてみましょう。スイッチの自由形式ポリシーを作成します。

このポリシーがスイッチに正常に展開されると、NDFC は永続的な差分を報告します。

[並列比較 (Side-by-side Comparison) ] タブをクリックすると、違いの原因を確認できます。 `ip pim rp-address` 行の先頭には 2 文字のスペースがありますが、実行構成の先頭にはスペースがありません。

この相違を解決するには、対応するスイッチの自由形式ポリシーを編集して、スペースを合わせます。

保存後、[構成のプッシュ (Push Config) ] または [再計算と展開 (Recalculate & Deploy) ] オプションを使用して差分を再計算します。

差分が解決されたことがわかります。 [並列比較 (Side-by-side Comparison) ] タブで、先頭のスペースが更新されていることを確認します。

## 例 2 : オーバーレイ構成での先頭スペース エラーの解決

[保留中の構成 (Pending Config) ] タブに表示される先頭スペース エラーの例を考えてみましょう。

[並列比較 (Side-by-side Comparison) ] タブで、展開された構成のコンテキストを理解するために、行ごとの差分を検索します。

一致数が 0 の場合は、NDFC がスイッチにプッシュするために評価した特別な構成であることを意味します。

実行中の構成と期待される構成の間で、先頭のスペースが一致していないことがわかります。

それぞれの自由形式の構成に移動し、先頭のスペースを修正して、更新された構成を保存します。

ファブリックの [ファブリックの概要 (Fabric Overview) ] ウィンドウに移動し、[再計

算と展開 (Recalculate & Deploy) ] をクリックします。 [構成の展開 (Depl

Configuration) ] ウィンドウで、すべてのデバイスが同期していることがわかります。



# 外部ファブリックでのコンプライアンスの構成

外部ファブリックを使用すると、Nexusスイッチ、Cisco IOS-XEデバイス、Cisco IOS XRデバイス、およびAristaをファブリックにインポートできます。導入のタイプに制限はありません。LAN クラシック、VXLAN、FabricPath、vPC、HSRP などを使用できます。スイッチが外部ファブリックにインポートされるとき、非中断となるようにスイッチの設定が保持されます。スイッチユーザ名やmgmt0インターフェイスなどの基本ポリシーのみが、スイッチのインポート後に作成されます。

外部ファブリックでは、Nexus Dashboard Fabric Controller で定義されているインテントに対して、構成コンプライアンス (CC) により、このインテントが対応するスイッチに存在することが保証されます。このインテントがスイッチに存在しない場合、CCはOut-of-Syncステータスを報告します。さらに、このインテントをスイッチにプッシュしてステータスを同期中に変更するために生成された保留中の設定があります。スイッチ上にあるが、Nexus Dashboard Fabric Controller で定義されたインテントではない追加の構成は、インテント内の設定との競合がない限り、CCによって無視されます。

前述のように、ユーザ定義のインテントが Nexus Dashboard Fabric Controller に追加され、同じトップレベルコマンドの下にスイッチの追加構成がある場合、CC は Nexus Dashboard Fabric Controller で定義されたインテントがスイッチに存在することのみを確認します。Nexus Dashboard Fabric Controller 上のこのユーザー定義インテントがスイッチから削除する目的で全体として削除され、対応する構成がスイッチに存在する場合、CC はスイッチの OUT-OF-SYNC ステータスをレポートし、【保留中の構成 (Pending Config)】を作成してスイッチからその構成を削除します。この保留中の構成には、トップレベルのコマンドの削除が含まれています。このアクションにより、このトップレベルコマンドでスイッチで行われた他のアウトオブバンド設定も削除されます。この動作を上書きすることを選択した場合は、自由形式ポリシーを作成し、関連する最上位コマンドを自由形式ポリシーに追加することを推奨します。

この動作を例で見てみましょう。

1. Nexus Dashboard Fabric Controller のユーザーがスイッチに定義し、スイッチに展開した **switch\_freeform** ポリシー。
2. 実行構成の **router bgp** の下に、ユーザー定義 **Nexus Dashboard Fabric Controller** インテントの予期される構成に存在しない追加構成があります。Nexus Dashboard Fabric Controller 上で、ユーザー定義のインテントなしでスイッチに存在する追加の構成を削除する【保留中の構成 (Pending Config)】はありません。
3. 手順 1 で作成された **switch\_freeform** ポリシーを削除することで、Nexus Dashboard Fabric Controller によって以前にプッシュされたインテントがから削除された場合の保留中の構成と並列比較。
4. 最上位の **router bgp** コマンドを使用して **switch\_freeform** ポリシーを作成する必要があります。これにより、CC は以前に Nexus Dashboard Fabric Controller からプッシュされた目的のサブ構成のみを削除するために必要な構成を生成できます。
5. 削除された構成は、以前に Nexus Dashboard Fabric Controller からプッシュされた構成のサブセットのみです。

外部ファブリックのスイッチのインターフェイスでは、Nexus Dashboard Fabric Controller はインターフェイス全体を管理するか、まったく管理しません。CC は次の方法でインターフェイスをチェックします。

- 任意のインターフェイスについて、ポリシーが定義され、関連付けられている場合、このインターフェイスは管理対象と見なされます。このインターフェイスに関連付けられているすべての設定は、関連付けられたインターフェイス ポリシーで定義する必要があります。これは、論理インターフェイスと物理インターフェイスの両方に適用されます。

それ以外の場合、CCは、インターフェイスに行われたアウトオブバンド更新を削除して、ステータスを[In-Sync]に変更します。

- アウトオブバンドで作成されたインターフェイス（ポートチャネル、サブインターフェイス、SVI、ループバックなどの論理インターフェイスに適用）は、通常の検出プロセスの一部として Nexus Dashboard Fabric Controller によって検出されます。ただし、これらのインターフェイスにはインテントがないため、CC はこれらのインターフェイスの **[OUT-OF-SYNC]** ステータスをレポートしません。
- どのインターフェイスにも、Nexus Dashboard Fabric Controller に関連付けられたモニタ ポリシーが常に存在する可能性があります。この場合、CC は **[IN-SYNC]** または **[OUT-OF-SYNC]** 構成順守ステータスをレポートするときに、インターフェイスの構成を無視します。

# 構成コンプライアンスで無視される特別な構成 CLI

次の構成 CLI は、構成コンプライアンス チェック中に無視されます。

- ・ 「ユーザー名」とともに「パスワード」が含まれている CLI
- ・ 「snmp-server user」で始まるすべての CLI

上記に一致する CLI は保留中の差分に表示されず、[ファブリック ビルダー (Fabric Builder) ] ウィンドウで [保存して展開 (Save & Deploy) ] をクリックしても、そのような設定はスイッチにプッシュされません。これらの CLI は、並列比較ウィンドウにも表示されません。

このような構成 CLI を展開するには、次の手順を実行します。

1. [管理 (Manage) ] > [ファブリック (Fabrics) ] の順に選択します。

ファブリック名をダブルクリックして [ファブリックの概要 (Fabric Overview) ] 画面を表示します。

2. [スイッチ (Switch) ] タブで、スイッチ名をダブルクリックして、[スイッチの概要 (Switch

Overview) ] 画面を表示します。[ポリシー (Policies) ] タブには、選択したファブリック内のスイッチに適用されているすべてのポリシーが一覧表示されます。

3. [ポリシー (Policies) ] タブで、[アクション (Actions) ] ドロップダウン リストから [ポリシーの追加 (Add Policy) ] を選択します。

4. 必要な構成を持つポリシー テンプレート インスタンス (PTI) を追加します  
switch\_freeform テンプレートを選択し、[保存 (Save) ] をクリックします。

5. 作成したポリシーを選択し、[構成のプッシュ (Push Config) ] ([アクション (Actions) ] ドロップダウン リスト) を選択して、構成をスイッチに展開します。

# 大文字と小文字を区別しないコマンドの差分の解決

デフォルトでは、インテントを比較する際に NDFC で生成されるすべての差分（予期される構成と実行構成の差分）では、大文字と小文字が区別されます。ただし、スイッチには大文字と小文字を区別しないコマンドも多くあるため、これらのコマンドで相違点が存在するとしてフラグを付けるのは適切でない場合があります。これらは、**compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** テンプレートに取り込まれます。これは【管理 (Manage)】>【テンプレート (Templates)】の下にあります。

Cisco NDFC リリース 12.0.1a 以降、**compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** ファイルは、他の 2 つの **compliance\_strict\_cc\_exclude\_clis.txt** および **compliance\_ipv6\_clis.txt** ファイルとともに、出荷されるテンプレートの一部になりました。すべてのテンプレートは、【管理 (Manage)】>【テンプレート (Templates)】にあります。テンプレートの変更は、【使用中のテンプレートのオーバーライド (Template In-Use Override)】を無効にした後に実行できます。

既存の **compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** ファイルに含まれていない追加のコマンドは、大文字と小文字を区別するものとして扱うべきです。構成の保留が、NDFC が予期している構成と実行構成との間の大文字と小文字の違いによって生じたものである場合、次の方法で、大文字と小文字の違いを無視するように NDFC を構成できます。

1. 【管理 (Admin)】>【システム設定 (System 設定)】>【サーバー設定 (Server 設定)】>【LAN - Fabric (LAN -Fabric)】の順に選択し、【テンプレートでオーバーライドを使用 (Template In-活用 Override)】をオフにして、【パスワードを変更】をクリックします。
2. 【管理 (Manage)】>【テンプレート (Templates)】に移動し、**compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** ファイルを検索します。
3. **compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** を確認し、【アクション (Actions)】>【編集 (Edit)】テンプレート コンテンツを選択します。

**Compliance\_case\_insensitive\_clis.txt** ファイルのエントリの例を次の図に示します。

4. 図で強調表示されているエントリを削除し、【完了 (Finish)】をクリックします。

```
[root@dcnm98 model-config]# pwd
/usr/local/cisco/dcm/dcm/model-config
[root@dcnm98 model-config]# cat compliance_case_insensitive_clis.txt
"^(no |)interface\s+Port(.)"
"^(no |)interface\s+Loo(.)"
"^(no |)interface\s+Eth(.)"
"^update-source\s+Loo(.)"
"^vrf\s+"
"^hardware profile portmode\s+"
"^(.*)route-map\s+(.)"
"^(.*)neighbor-policy(.)"
"(no |)encapsulation\s+(.)"
"^(.*)alert-group\s+(.)"
"^streetaddress\s+(.)"
"^transport email\s+(.)"
"(no |)action\s+(.)"
"(no|)\s+\d*\s+remark.*"
[root@dcnm98 model-config]#
```

ヒ

NDFC 12.2.1 にアップグレードした後、**compliance\_case\_insensitive\_clis** テンプレートの次の 2 行のコメントを解除する必要があります。

```
"^match\s+external-subnets\s+vrf\s+.*"  
"^match\s+connected-endpoints\s+vrf\s+.*"  
==
```

NDFC のアップグレードプロセスでは、 **compliance\_case\_insensitive\_clis** テンプレートにこれらの 2 行がコメントとして追加されます。これらの行のコメントを解除する必要があります。これらの 2 つの行のコメントを解除しない場合、NDFC と Cisco NX-OS の VRF 名が一致しないため、セキュリティグループアクセス制御リスト (SGACL) は常に非同期として表示されます。

5. 展開中に新しいパターンが検出され、それらが構成の保留をトリガーしている場合、これらのパターンをこのファイルに追加します。パターンは、有効な正規表現パターンである必要があります。
6. [管理 (Admin) ] > [システム設定 (System 設定) ] > [サーバ設定 (Server 設定) ] > [LAN-Fabric] に移動し、[使用中のテンプレートのオーバーライド (Template In-Use Override) ] をオンにして、[保存 (Save) ] をクリックします。

これにより、NDFC は、比較の実行中に、記述された構成パターンを大文字と小文字を区別しないものとして扱うことができます。

7. ファブリックについて、[再計算と展開 (Recalculate & Deploy) ] をクリックして、更新された比較出力を表示します。

# スイッチインポート後の構成コンプライアンスの解決

Cisco NDFC にスイッチをインポートした後、管理インターフェイス (mgmt0) の説明フィールドに余分なスペースがあるため、スイッチの構成コンプライアンスが失敗することがあります。

たとえば、スイッチをインポートする前に：

```
interface mgmt0
description SRC=SDS-LB-LF111-mgmt0、DST=SDS-LB-SW001-Fa0/5
```

スイッチをインポートして構成プロファイルを作成したら、次の手順を実行します。

```
interface mgmt0
description SRC=SDS-LB-LF111-mgmt0、DST=SDS-LB-SW001-Fa0/5
```

mgmt0 インターフェイスを選択した後、インターフェイス マネージャに移動し、**[編集 (Edit)]** アイコンをクリックします。説明の余分なスペースを削除してください。

# 厳格な構成コンプライアンス

厳密な構成コンプライアンスは、スイッチ構成と関連するインテント間の相違をチェックし、スイッチに存在するが関連するインテントに存在しない構成の `no` コマンドを生成します。[再計算と展開 (Recalculate and Deploy)] をクリックすると、関連付けられたインテントに存在しないスイッチ構成が削除されます。この機能を有効にするには、[厳密な公正コンプライアンスを有効にする (Enable Strict Config Compliance)] チェック ボックスをオンにします。これは [詳細設定 (Advanced)] タブ ([ファブリックの作成 (Create Fabric)] または [ファブリックの編集 (Edit Fabric)] ウィンドウ) にあります。デフォルトで、この機能は無効になっています。

厳密な構成コンプライアンス機能は、Easy ファブリック テンプレート (Data Center VXLAN EVPN および BGP ファブリック) でサポートされています。スイッチによって自動生成されるコマンド (vdc、rmon など) について差分が生成されないようにするために、CC はデフォルトのコマンドのリストを含むファイルを使用して、これらのコマンドに対して差分が生成されないようにします。このファイルは、[管理 (Manage)] [テンプレート (Templates)]、`compliance_strict_cc_exclude_clis.txt` テンプレートで維持されます。

## 例：厳密な構成コンプライアンス

feature telnet コマンドがスイッチで構成されているが、インテントに存在しない例を考えてみましょう。このようなシナリオでは、CC チェックが実行された後、スイッチのステータスが非同期として表示されます。

次に、非同期スイッチの [構成のプレビュー (Preview Config)] をクリックします。厳密な構成コンプライアンス機能が有効になっているため、[構成のプレビュー (Preview Config)] ウィンドウの [保留中の構成 (Pending Config)] の下に feature telnet コマンドの `no` 形式が表示されます。

[並列比較 (Side-by-Side Comparison)] タブには、実行構成と予想される構成の差が並べて表示されます。[再同期 (Re-sync)] ボタンは、[構成のプレビュー (Preview Config)] ウィンドウの [並列比較 (Side-by-Side Comparison)] タブの右上隅にも表示されます。大規模なアウトオブバンド変更がある場合、または設定変更が NDFC に正しく登録されていない場合に、このオプションを使用して NDFC 状態を再同期します。

再同期操作は、スイッチに対して完全な CC 実行を実行し、「show run」および「show run all」コマンドをスイッチから再収集します。再同期プロセスを開始すると、進行状況メッセージが表示されます。再同期中に、実行構成がスイッチから取得されます。スイッチの Out-of-Sync/In-Sync ステータスは、NDFC で定義されたインテントに基づいて再計算されます。

次に、[構成のプレビュー (Preview Config)] ウィンドウを閉じ、[再計算と展開 (Recalculate and Deploy)] をクリックします。厳密な構成コンプライアンス機能により、feature telnet コマンドの `no` 形式をスイッチにプッシュすることによって、スイッチの実行構成がインテントから逸脱しないようにします。構成間の相違が強調表示されます。feature telnet コマンド以外の差分は、デフォルトのスイッチ構成およびブート構成であり、厳密な CC チェックでは無視されます。

[ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウでスイッチを右クリックして [構成のプレビュー (Preview Config)] を選択すると、[構成のプレビュー (Preview Config)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、インテントに準拠した構成を実現するためにスイッチにプッシュする必要がある保留中の構成が表示されます。

カスタムの自由形式構成を NDFC に追加して、NDFC での目的の構成とスイッチ構成を同一にすることができます。その後、スイッチは In-Sync ステータスになります。NDFC にカスタム自由形式構成の追加方法の詳細については、「[ファブリック スイッチでの フリーフォーム構成の有効化](#)」を参照してください。

# 著作権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、この参照により本マニュアルに組み込まれるものとします。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナルリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

Cisco およびCisco のロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、<http://www.cisco.com/go/trademarks> でご確認いただけます。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017-2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.